



医療・福祉講演会要旨

去る平成13年10月9日に行われた第3回講演の内容をまとめました。

産むこと、生まれること

—助産婦としての経験と、ブラジル国際協力の経験から—
毛利助産所 毛利多恵子

現在母と一緒に神戸で助産所を開業して、自然なお産に取り組んでいるが、自然な出産から学ぶ事が非常に多い。日本での助産婦としての経験と、ブラジルにおいて行なった国際協力事業団(JICA)プロジェクトの人間的な出産を目指す活動経験を踏まえて、産むこと生まれることについて述べてみたい。



毛利多恵子先生

母と子のつながり

今日本は、キレル子供、虐待、親子関係など色々な問題が起こっているが、助産婦としての体験から感じるのは、女性にとって意義の深い事、お母さんが癒される事こそが親子関係によるのではないだろうかという事である。

妊娠中母親と赤ちゃんは色々な事でコミュニケーションがとれる。胎児は14週頃から母親の語り掛けを理解できるようであり、母親が赤ちゃんに問いかけると赤ちゃんはサインを出す。例えば旅行に出掛けたいと思う時、赤ちゃんに尋ねると行って良いかどうかサインを出してくれる。病院を受診するタイミングも赤ちゃんが教えてくれる。そうしたサインをうまくキャッチすると、スムーズな出産へと繋がるのである。

自然な出産

自然なお産の為には自分の中にある産む力を引き出す事が必要である。妊娠中、女性はとてもデリケートになるので、妊婦とよく対話するように努めている。妊婦検診の際にもできるだけ夫婦と一緒に受診させ、夫に児心音を聞かせたりして夫婦の一体感を増すようにしている。また妊婦同士の集まりを持ち、小グループで体験を語り合うようにしている。このようにして妊婦がお互いに語り合ったり、食事の話をしたり、或いはヨガなどをすることによって、次第に気持ちを整える事ができるようになり、やがて出産に対して不安を抱くよりも楽しみが増して来るのである。陣痛は寄せては引いて行く波のようである。痛いばかりではなく、ふーっと楽になる時がある。赤ちゃんが休みたい時には間隔が長くなる。水中出産では、お湯により痛みが和らぎ、浮力がついて楽な出産になる。出産直後はエクスタシーを感じる人もおり、地獄から天国へ180度変わったと表現する人もいる。

家族全員での出産

家族の参加はとても良い雰囲気を作り出す。出産に立ち会う子供達は、お産を見て怖いというよりも、淡々と見ている事が多く、母親の手を握ったり、声を掛けて励ましたりもする。出産直後、何も言わずに見守っていると、女性は2-3分赤ちゃんに没頭し、その後ふーっと落ち着いて赤ちゃんに話し掛ける。「よく頑張ったねー」など。赤ちゃんも母親をじーっと見つめ、まるで聞いているかのような様子である。この時期は母親の体内にアドレナリンやエンドルフィンの分泌が高まっている時期で、女性の表情はきつい事もあるが、幸福感に満ちている。やがて赤ちゃんは、おっぱいを吸いたがる。おっぱいを吸ってくれるとホルモンが出て、子宮の収縮も強くなり、出血も少なくなる。こうして赤ちゃんはお母さんに貢献しているのである。



聴講者の代表が詩の朗読をしました

日常生活の中での出産

自宅出産や助産所での出産は、女性にとって日常生活の一コマの中での出産となる。馴染みのある環境での出産は、異常出産が少なく、準備された家庭出産は(突然の出産は別だが)最も安全な出産と言われている。これは世界的な研究結果に裏付けされている。異常が無い限り、自分達は暫くの間産婦に声を掛けないようにしてそっと見守っている。そうしないと産婦が周囲に気を遣うからである。産後は母親は赤ちゃんと一緒に寝る。最初の3日間位はお乳も余り出ないので、夜は殆ど1時間毎の授乳となり、肉体的には辛いはずなのだが、いとおしくてしょうがなくなり、辛さを感じないようである。赤ちゃんのリズムに合わせて行くと、全てが自然に運ぶようであり、苦にならずに育児も楽しくなっていく。

良い出産が幸せな親子関係をもたらす

ブラジルでの人間的な出産を進める活動の結果、生まれたての赤ちゃんがのびやかに、幸せそうにしている光景が見られるようになった。生まれて来る事、産む事は本来備わっている力によるものであり、それを開花させるには人間的なつながりが大切である事を改めて知った。安心したり、優しい人間的な愛情を受けた時に、ホルモンがうまく分泌されるという事は科学的にも証明されている。お産は辛く、陣痛は痛い、優しさを受けた女性はそれを乗り越える事ができる。そして子供に対しても優しく接する事ができるようになるのである。虐待は世代間の連鎖と言われ、虐待を受けた人は無意識のうちにそれを次世代に渡して行く。お母さん自身が癒される事で、こうした虐待を食い止める事が出来るのではないだろうか。

出産の意味するもの

出産は心身ともに人生での初めての経験とよく言われる。自分が自分でないように、自分の行動にびっくりしたりするが、そうした時に優しくサポートされたならば、女性は違った価値観を見出すのではないだろうか。苦しい時に思い切り騒いでも良い。それを助産婦が抑えたり、無理を強いるのは駄目である。人生の最後の時もその人なりの姿で迎えるべきであり、その意味で出産とターミナルケアは共通した事象であろう。自分の中にある本能的な力、気付きを大切にして行かなければならないと思う。



お知らせ

当院では、定期的にこのような講演会を開催いたしております。入場無料で、どなたでも聴講できますので、皆さんぜひご参加ください。次回の講演は下記の通りです。

第5回 医療・福祉講演会 平成14年1月8日(火) 西病棟1階会議室 午後6時～
講師 岩谷力先生(東北大学大学院医学研究科肢体不自由学分野教授)
テーマ 「脳卒中後のリハビリテーション(仮題)」

くわしくは掲示板の案内または、窓口にお問い合わせ下さい。
皆様のご参加をお待ちしております。

* バックナンバーご用意してあります。ご希望の方は医事課 小野寺までお気軽にどうぞ。

医療法人 医徳会 ホームページアドレス <http://www.itokukai.or.jp> です。